

普及活動情勢報告（平成 28 年 10 月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

津野山産ユズの安定生産に向けて！～J A津野山ゆず部会総会を開催～



栽培講習の様子

9月27日、J A津野山ゆず部会が営農センター輝で、総会を開催し、生産者39人が参加しました。

J Aは馬路村への視察研修等の日程調整を、農業改良普及課は平成28年度の果実横径の肥大状況及び気象データ、ミカンサビダニ等の情報提供を行いました。

生産者からは、ミカンサビダニやユズの生育状況についての質問が出され、情報交換を行うことで栽培管理について、生産者の関心を高める事が出来ました。

農業改良普及課は、今後もJ Aと連携してユズの安定生産に向けた取組みを支援していきます。

ワサビ栽培計画を打合せ！～J A津野山加工用ワサビ栽培検討会～



生産者と次作の作付計画を協議

9月30日、加工用ワサビ栽培検討会がJ A津野山営農センター輝で開催され、生産者7人が参加しました。J Aは苗の注文数や栽培面積の取りまとめを、農業改良普及課は定植初期までの栽培管理について説明しました。

生産者からは、適用農薬やかん水管理についての質問が出されました。また、新規栽培者1名が新たに加わったことで、既存の生産者からのアドバイスを受ける等の様子も見受けられました。

農業改良普及課は、今後もJ A等関係機関と連携し、津野山産の加工用ワサビ栽培を講習会等で支援していきます。

クジャクアスター目慣らし会・現地検討会の開催



10月6日J A土佐くろしお花き部クジャクアスター研究会では目慣らし会及び、I P M技術についての現地検討会を開催し、生産者4人が参加しました。J Aは市況について報告し、農業改良普及課からは防虫ネットの効果の調査結果について報告しました。

参加者からは、防虫ネットの価格等について質問が出されました。また既に設置している生産者が、防虫ネットの必要性を説明するなど情報共有が出来ました。

農業改良普及課は今後もJ A等関係機関と連携し、花き類でのI P M技術導入への取組みを支援していきます。

平成 28 年産のユズ出荷計画等を打合せ！～ J A津野山ゆず部会が馬路村を視察～



J A馬路村との打合せの様子

10 月 11 日、J A津野山ゆず部会が加工用ユズ出荷に関する打合せ及びユズ園視察を馬路村で行い、生産者 2 人が参加しました。J Aはユズの集荷日程表及び出荷日や出荷目標数量等を、農業改良普及課はユズ果実の肥大調査結果等を報告しました。

生産者からは「もう少し 10 月に集荷日を増やしてほしい」という意見が出されました。

J A馬路村との情報交換及びユズ園視察により、生産者の栽培管理等への関心を高めることが出来ました。

農業改良普及課は、10 月 17 日に開催される目慣らし会で、モデル園の調査で得られた肥大状況等の報告を行い、計画的な出荷等を支援します。

実証ほ等の調査データを活用した「ミョウガ勉強会」の開催



ミョウガ炭酸ガス施用勉強会

9 月 29 日に、J A土佐くろしおミョウガ部会を対象に勉強会を開催し、農家など 45 名が参加しました。今まで調査してきた生育データや温湿度を基に今年の低収量要因やミョウガにおける炭酸ガス施用効果などについて報告し、意見交換を行ないました。

特に、今年の低収量については、「原因はわかったがその対策は」という厳しい意見など、熱心な勉強会となりました。

ミョウガの栽培技術については、依然と解らないことが多いが、定期的に勉強会を開催し、栽培技術のレベルアップに取り組めます。

ユズの円滑な集荷に向けて！～ユズ目慣らし会を開催～



肥大調査結果を生産者に報告

10 月 17 日、J A津野山ゆず部会を対象とした目慣らし会が営農センター輝で行われ、生産者 43 人が参加しました。

J Aは出荷規格の遵守事項等の説明を、農業改良普及課はモデル園で実施した果実肥大・着色状況等の調査結果を説明しました。

参加者からは、新たに発生が確認されたミカンサビダニの防除に関する質問が出される等、防除意識の向上、果実横径と収量の関係等への理解を深めることが出来ました。

農業改良普及課は集荷場において、今年度の果実の肥大及び着色状況等を把握し、より高単価である 50%着色果の出荷量増加に向けて支援していきます。

美味しい新米できました！～「四万十の清粒 特栽 大野見米」販売開始～



農家自ら新米をPR

10月17日、JA四万十大野見支所で開催された「大野見しんまいフェスタ」にて、おおのみエコロジーファーマーズのブランド米、「四万十の清粒 特栽 大野見米」の新米の販促PRが行われました。

おおのみエコロジーファーマーズでは大野見米の知名度アップと消費者に選ばれる米産地の形成を目指し、特別栽培米の生産や農家自らによる販促活動を行っています。しんまいフェスタでは、新米の試食・販売を実施し、‘ヒノヒカリ’と‘にこまる’の味の違いを消費者にPRしました。消費者からは「大野見米は有名だ。」という声もきかれ、ブランド米として浸透してきていることが伺えました。

農業改良普及課は、玄米の品質分析を行い、次年度栽培へ反映させていくとともに、さらなる販路拡大を支援していきます。